

# 特定非営利活動法人 APLA

## 2016 年度事業報告



アジアのパートナー地域では、フィリピン、東ティモールを中心にこれまでサポートをしてきた各地域の若手農民たちの交流が、2016年10月にネグロス島で実現しました。実り大きな学びの機会となりました。2017年3月には、これまでAPLAでは商品の取り扱いの接点しかなかったラオスのコーヒー生産者ともネグロス島での交流が実現しました。次年度からは3カ国の交流実施へとつなげていきます。地域で活躍する農民たち自身の交流は、APLAらしい交流の実現だと考えています。

国内では、「友産友消のススメ」とし、全6回の“より深く・楽しく知ってもらおう”企画を開催し、お馴染みの民衆交易商品たちを料理人の方たちに調理してもらい、味わい、更に商品にまつわるストーリーを聞いてもらうという充実の企画ができました。新しい視点で民衆交易商品の魅力を見直す機会ともなりました。理事会・評議員会では、APLA設立から10年の節目となる2018年に向けた新たな中長期計画を作成するために、議論を重ねました。

## ◆海外支援事業

### フィリピン・ネグロス

フィリピン・ネグロス島のカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（以下KF-RC）の自立運営をサポートしながら、KF-RC を軸に次世代の農民を育て、地域に循環型有機農業を普及していく活動を進めました。

#### 【実施した活動】

#### ①KF-RC の自立に向けた運営強化：

KF-RC の農場自体の自立に向け、農場計画、会計管理、マーケティングなどのサポートをしてきました。特に 2016 年度は、豚の市場状況が大きく変動し、供給量が増加しました。そのため販売価格は下落し、KF-RC のお客さんもより安い豚を求め減少したため、豚の販売において大きな問題を抱えてしまった年になりました。問題の解決に向け、これまで以上に話し合いを重ね、マーケット開拓という課題にも取り組んでいます。KF-RC の有畜複合循環型有機農業に興味を持つ人々も増えてきました。自らの農業や循環について地域に普及をしていくサポートも継続して実施し、BM 活性水の品質安定においては、BMW 技術協会のサポートに協力をしています。



#### ②第 7 期生の受け入れ：

2016 年 8 月から、第 7 期生となる若者 3 人（フランク、エルナード、ロドニー）が研修をスタートしました。今回は、お互いに支えあい、自立への負担を減らすことを目的に、これまでの卒業生がすでにいる地域（パンダノン、マガリオン、シアノン）から研修生を受け入れました。6 カ月間の研修後、2017 年 2 月に卒業式を開き、現在は各地域で、まず自身が農業で自立していけるように日々頑張っています。これまでの反省を活かし、今回から 1 ヶ月ほど卒業後の実践の様子をみてから、その人や地域にあった循環型農業のシステムを導入していくことになっています。養豚だけがこだわらず、牛や馬などの糞尿を利用した循環型農業をできないか、スタッフ・研修生と模索しています。



#### ③卒業生のフォローアップ：

KF-RC スタッフと一緒に定期的な卒業生訪問を引き続き実施しています。2~3 ヶ月に 1 度、卒業生の畑を訪問して、成果や課題を話し合い、卒業生が地域で孤立し、挫折しないようにフォローアップしました。KF-RC にも定期的集まり、東ティモールの農民がネグロスを訪れたときは、一緒に交流をしました。KF-RC で学んだことを地域で実践し、卒業生の畑がミニカネシゲファームとなり、循環型有機農業普及の拠点となれるように、また、営農していくために構築された卒業生基金の貸付金が回収され、次期卒業生へとつながられるように、フォローアップを今後も継続していきます。



※BMW 技術：微生物（バクテリア）とミネラルの働きをうまく利用し、土と水が生成される生態系のシステムを人工的に再現する技術のこと。BM 活性水は、この技術により作られる活性水。



## 東ティモール

エルメラ県のコーヒー産地において、作物の多様化による収入の安定化と自給率の向上、森林農業（果樹など）の導入、女性メンバーによる食品加工、若手リーダーの育成、住民主体型の環境保全活動など、「コーヒーだけに頼らない地域づくり」をめざした様々な試みを続けてきています。

### 【実施した活動】

#### ①循環型農業を軸にした地域づくり支援：

4つのコーヒー生産者グループで、コーヒー以外の様々な果樹を植える取組みが進んでいます。果樹が実をつけるまでには数年かかりますが、実験農場をグループで共同管理・運営しながら、苗の生産にも着手しました。また、若手リーダーによる技術普及の成果もあり、各家庭で自家消費用や地域内で販売するための野菜を栽培するメンバーが確実に増えています。



#### ②女性グループの活動支援：

家計を安定させるための収入源多様化の一環として、女性グループの組織化および地場農産物の食品加工をサポート。今年度は、他地域の女性グループとの交流を実施し、食品加工の技術向上、販路拡大のためのパッケージング技術習得につながる一歩を踏み出しました。



#### ③水源保全・植樹活動と環境教育：

2016年8月、エルメラ県のコーヒー産地の村で、小学生高学年の子どもを対象にした環境キャンプ「Perma Kids Camp」を現地NGOパーマティル（Permatil）との共催で開催し、5つの地域から150人以上の子どもたちが参加しました。循環型農業や環境保全について学ぶテーマ別ワークショップ、水源保全についてのレクチャーと観察会、キャンプファイヤーを囲んでの出し物大会など、様々なプログラムを通じて、参加した子どもたちは沢山の気づきを得て、帰宅後に自分の家や学校で実践を始めています。



## フィリピン・北部レソン

APLA 発足当初からパートナーであった現地協同組合 CORDEV とは関係解消することになりました。CORDEV は、これまで北部レソンからのバラゴンバナナの出荷を担っていましたが、その任務が終了したこと、また近年は、役員の変更などに伴い、当初の目的であった先住民族の零細農民との活動が具体的に実施できず、CORDEV とは 16 年 6 月をもって直接的な関係を解消することになりました。今後は運動面で連携できることがあれば協働することとして確認しています。その他、北部レソンにおける地域循環型農業の普及に向けた活動を継続しました。



### 【実施した活動】

#### ① マラビン渓谷ギルバート農場への農業技術支援

ヌエバ・ビスカヤ州マラビン渓谷の柑橘栽培農家へは、引き続き BMW 技術を通じてのサポートをしています。

#### ② 遺伝子組み換えとうもろこしの生産者たちを訪問

イフガオ州では、遺伝子組み換えとうもろこし (BT コーン) の畑が広がり、取り囲まれている状況に危惧を抱くなかで、有機農業に大きな可能性を感じている農民との話し合いをしました。農民の中には、以前バラゴンバナナを出荷していた生産者もいます。まずは、すでに北部レソンの他の地域で有機農業に取り組んでいる生産者を訪問したり、前述の柑橘農家でもあるギルバートさんが代表を務める NVAT (ヌエバビスカヤ州御売市場) を訪問したりする機会をつくることになりました。



## インドネシア

エコシュリンプの生産地である東ジャワ・シドアルジョでは、周辺地域の経済発展に伴い、水質環境の悪化が懸念されています。エビ生産者の生計維持や環境共生型のエビ養殖の将来を考え、地域の環境保全活動から一歩踏み込んで、地域の経済と環境が共に持続可能な形で発展していくための方法を模索しはじめている地元 NGO の KOIN (Konservasi Indonesia) およびオルター・トレード・インドネシア社 (ATINA) と協議を重ね、具体的な活動の準備が整いました。

### 【実施した活動】

養殖池につながる河川の水質環境調査の実施とその結果にもとづいた環境改善・保全活動を実施したいという KOIN/ATINA の意向を受けて、APLA が窓口となり、パルシステム連合会による地域づくり基金に応募。2017 年度実施の活動に助成をいただくことが決定しました。その準備のための現場視察を実施しました。



## ◆広報・出版事業

### ◎友産友消(ともさんともしょう)のススメ：

民衆交易商品の魅力や産地について、より深く・楽しく知ってもらい、APLAのファンを増やすための試みとして、企画した連続イベント。毎回、民衆交易の商品を一つずつ取り上げ、その食材をメインにした料理をいただいた後に、その食材のもつストーリーを伝えるという形式で、全6回(下記参照)開催しました。

- ・ 7/13 (水) エコシュリンプ× エヌ・ハーベスト鈴木裕《23名》
- ・ 8/30 (火) バランゴンバナナ× Samosa wala Timoke : 《20名》
- ・ 9/28 (水) パレスチナのオリーブオイル× Peace Deli 新納平太《18名》
- ・ 10/22 (土) コーヒー産地別飲み比べ&フードペアリング《14名》
- ・ 11/30 (水) ゲランドの塩× 東京くらげ《14名》
- ・ 12/13 (火) パプアのカカオ× きまぐれや吉田友則《21名》



### ◎機関誌ハリーナ 32号～35号発行：

- 2016年5月 32号 [特集] タイ：水産加工食品の現場では一監禁されて働く外国移住労働者
- 2016年8月 33号 [特集] ラオス：新興コーヒー生産国の農民の生活
- 2016年11月 34号 [特集] 地域づくりを担う人びと
- 2017年2月 35号 [特集] インドネシアのアブラヤシ農園拡大の下で



### ◎PtoP NEWS vol.1～vol.12：

「P to P」とは、「People to People (人から人へ)」を略した言葉。昨年まで隔月で発行していた「手わたしバナナくらぶニュース」をリニューアルし、民衆交易の商品や生産者のこと、ちょっと笑える裏話など、沢山のストーリーを毎月お届けしています。



## ◆交流事業

### ◎東ティモール・ラオス・フィリピンの3カ国の若手農民交流のプロジェクト：

それぞれの地域の次世代の農民たちが交流し、お互いの経験を学び合うことと、それぞれが交流を通じて自信をつけて新しい挑戦へつなげていくことが目標です。2016年10月に東ティモールから3人の若手農民、2017年3月にラオスから3人の若手農民がフィリピン・ネグロスを訪問し、一週間の交流プログラムを経て、双方に大きな気づきや学びがありました。出会い（交流）が気づきを与え、その気づきによって人が変わる、というAPLAが大切にしていることを改めて確認できました。2017年4月には、フィリピンとラオスから東ティモールを訪問、9月にはフィリピンと東ティモールからラオスを訪問する予定です。



### ◎BMW 技術協会：

2016年11月に全国交流会、2017年1月に若手幹事会、3月に基礎セミナーに参加をして、BMW技術について学び、日本全国の生産者と交流をしました。



### ◎二本松有機農業研究会・ソーラーシェアリングの応援

原発事故後に、福島地域再生を共に考えてきている二本松有機農業研究会の皆さんが、ソーラーシェアリングに向けて具体的に動き出し、始めるための資金集めを協力を形で、福島だけではなく他の地域が応援する形でソーラーシェアリングの設置をする取り組みを進めました。9月にはキックオフ集会「農民発電で地域再生」をアユス仏教国際協力ネットワーク、日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）と共催し、これを皮切りに、ソーラーパネル設置を支える「パネルサポーター」の募集を始め、APLAが受付窓口を担当することになりました。16年度の実績は以下となりました。

- ◆パネルサポーター：40名（828,500円/118枚分）、募金3名（6,268円）
- ◆APLA手数料：24,288円
- ◆二本松有機農業研究会への送金額：810,480円
- ◆カカオクッキー売上からの募金額：382個販売 x 200円 = 76,400円



### ◎「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップ：

5シーズン目となった2016年度は、一般・生協（パルシステム東京とパルシステム埼玉の地区委員会、ならびにエスコープ大阪）合計31カ所でワークショップを開催しました。合計で約450人が参加したほか、今年度初めての試みとして、このワークショップを一緒に広めてくれる講師養成のための講座を東京で開催し、6名の「カカオ大使」が誕生しました。



### ◎グリーンコープ青少年ネグロス体験ツアー：

2016年7月21日～7月28日、日本人高校生9名、ネグロスの若者10名がネグロスで交流する青少年ツアーが実施され、バラゴンバナナ産地での民泊や、様々なワークショップを通じて友情を深めました。西ネグロス州レコレトス大学では日本とネグロスの文化や民衆交易の劇と歌を披露しました。今回、参加者のひとりの母親は、教会の敷地で最初のバラゴンパッキング作業をしていたり、民泊の受け入れをしてくれたティソン村のバラゴンバナナ生産者組合委員長は20年程前に青少年ツアーに若者として参加をしていたり、世代を超えて繋がることができました。このツアーが途切れることなく、25年間続けてきたからこそ生まれた新たな出会いです。



### ◎グリーンコープfromネグロス組員ツアー：

2016年9月8日～13日、カカオの産地であるインドネシア・パプア州を訪問するツアーが実施され、グリーンコープ組員4名、職員1名、共同体事務局1名の合計6名が参加し、カカオ生産者との交流のために産地のブラップ村を訪問する以外に、現地法人カカオ・キタのスタッフとの交流を深めました。カカオの収量が少ない時期にあたってしまったため、カカオ事業そのものよりも、生産者の人たちの森の恵みに依拠した豊かな暮らし、協働や助け合いが基本となった生き方を知ることができる充実した交流となりました。



## ◆緊急救援事業

### ◎福島の子どもたちに届けよう、バナナ募金：

2011年3月福島第一原発の事故後、子どもたちが少しでも安心・安全な食べものが食べられるようにと農業を使わずに栽培されているバランゴンバナナを福島の保育園・幼稚園に定期的に送る活動を2011年11月より実施しています。今年度は福島市、郡山市のバナナお届け先の園を訪問しました。それぞれの園では頻度は異なるものの、現在でも給食で使用する食材をモニタリングしています。震災前にできていた園外での散歩や遊びなど、元々していた保育が今も出来ない状態が続いている点はどの園も共通していました。先生方からも早く元の保育が出来るようになりたいという声が多く聞かれました。訪問しお話を伺うなか、元々自然豊かな土地だからこそできた保育が、人災によって奪われている状態が今も継続しています。



### ◆2017年3月時点の発送先

いわき市2件、福島市11件、郡山市1件、南相馬市1件、相馬市1件：計16件

#### <募金状況>

年度	金額
2014年	827,532円
2015年	473,136円
2016年	404,063円

#### <発送状況>

年度	金額	バナナ発送重量
2014年	937,207円	2,269kg
2015年	581,951円	1,427kg
2016年	410,018円	854kg

※募金金額の最大10%を事務経費として使用しています。

### ◎ツピ（バランゴンバナナ産地）支援：

2016年のエルニーニョによる干ばつの被害に対して、バランゴンバナナの産地であるミンダナオ島・ツピへ APLA から義援金を送りました（ヨランダ台風の支援金の残金の一部を使用）。現地では、回復に向けて取り組んでおり、主に干ばつを生き延びたバナナの株に鶏糞を施肥することで成長を促し、有効的に回復させています。生産者たちは、今後も追肥の継続と有機物で作った液肥を散布し、病気による被害からも守り、生産性を向上していきたいと話しています。



## ◆フェアトレード事業

民衆交易品のネットショップ及びイベントでの販売をしました。販売するだけに留まらず、モノを通じて産地のことを認知してもらったり、モノの背景を知ってもらうことで、作る人と食べる人が交流し学び合いながら、共に支え合える関係づくりをめざしています。

### ◎オンラインショップでの通信販売

冬から販売したパラダイスパプア クラフトチョコレートが予想以上に反響があり大変好評を得ました。今まで原料として日本に輸入していたカカオをチョコレートにする工程まで現地で行い、現地でも販売するという初めての試みでした。日本向けでしかなかったものが生産者たちも手にすることができるようになりました。美味しさにもこだわったことはもちろん、これまでになかったスタイリッシュなパッケージも多くの人々の手に渡った要因ではないかと思います。

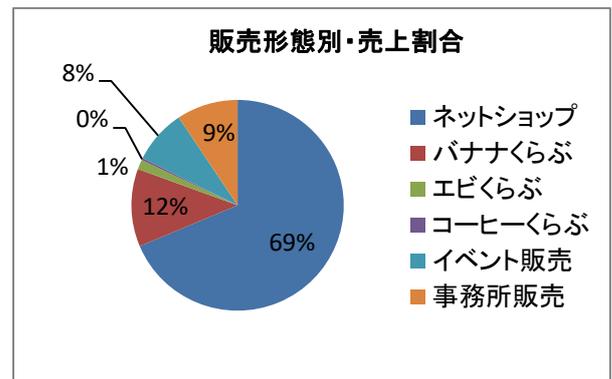
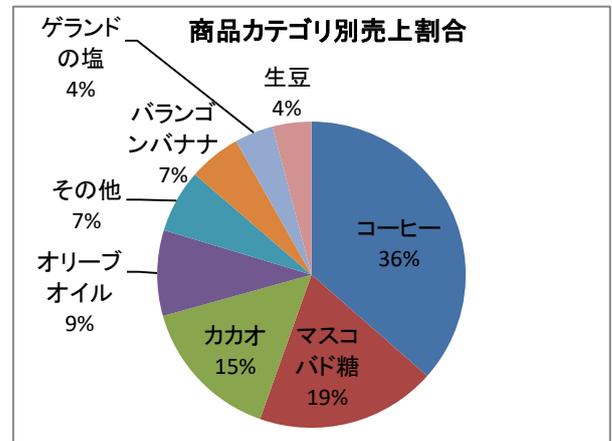
### ◎各イベントに出店

今年度のイベント出店回数 52 回。遊びにきたお客様と実際に会えて、民衆交易を直に伝えられる貴重な機会なので可能な限り、精力的に出店しています。

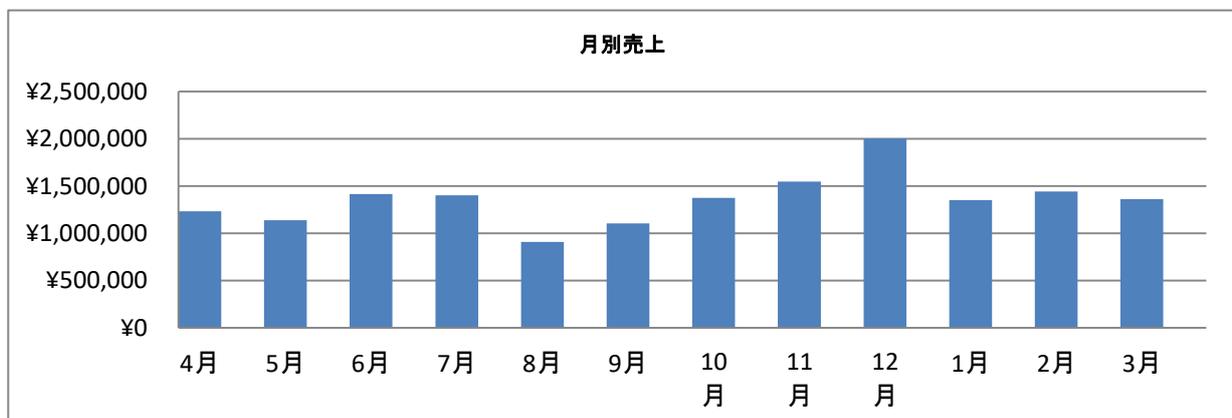
### ◎PtoP カフェ

(キッチンカーによるコーヒー等ドリンクの販売)

毎月1回、代々木公園で開催されているアースデイマーケットに出店しています。昨年度の反省や経験を踏まえ、学生インターンの協力も得てメニューの充実化や商品の打ち出し方を工夫。東ティモールやラオスコffee、バラゴンバナナのジュースなどをその場で味わってもらいながら、その魅力を伝える大事な機会となっています。



## ◆月別売上グラフ



## ◆事務局報告

### ■ 他団体とのネットワーク

- ・ アーユス仏教国際協力ネットワーク、日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)、オルター・トレード・ジャパン (ATJ)、とともに福島でつながった人びとを応援する活動、そのための「カカオクッキーwa」の販売を継続しています。
- ・ NGO 非戦ネット
- ・ チョコレート・アライアンス
- ・ 東ティモール・フェスタ実行委員会
- ・ 辺野古・高江を守ろう！NGO ネットワーク

### ■ 2016 年度の賛同・協賛

- ・ 国際環境 NGO FoE Japan 主催「Climate Justice Now—気候変動とたたかうアジアの人々の声」
- ・ 緊急声明 生物多様性の宝庫、やんばるの森と住民の生活を守るために行動を！ 高江へリパッド建設中止を！
- ・ 「TPP を批准させない！全国共同行動」
- ・ 高江オスプレイパッド建設…いま何が起きているのか？小口幸人弁護士を迎えて
- ・ プロサバンナ賛同署
- ・ 懸念と要請の手紙「やんばるの森を世界遺産に」
- ・ イスラエル入植地問題に関わる『日・イスラエル投資協定』の問題点についての要望

### ■ 会員報告 2017 年 3 月 31 日時点

	個人	団体	合計
正会員	110	35	145
賛助会員	95	16	111
合計	205	51	256

### ■ 組織体制

理事：秋山真兄（共同代表） 疋田美津子（共同代表） 吉澤真満子（事務局長） 市橋秀夫 上田誠  
鹿毛優子 廣瀬康代 堀芳枝 箕曲在弘（以上 9 名）

監事：近藤康男

評議員：赤松結希 秋山澄兄 安藤丈将 大野和興 大橋成子 岡公美（2017 年 2 月 25 日退任） 近藤恵  
出口雅子 橋本順子（以上 9 名）

顧問：弘田しずえ、前島宗甫

事務局員：吉澤真満子（事務局長） 野川未央（専従） 大久保ふみ（専従） 寺田俊（専従） 坂野亜希子（アルバイト）  
飯田華代（アルバイト）

### ■ 総会・理事会・評議員会

総会：第 9 回総会（2016 年 6 月 4 日）

理事会：第 25 回（2016 年 6 月 4 日/臨時総会）、第 26 回（2016 年 6 月 4 日/総会后）、第 27 回（2016 年 9 月 24 日）、  
第 28 回（2017 年 2 月 25 日）、第 29 回（2017 年 4 月 15 日）

評議員会：第 19 回（2016 年 9 月 24 日）、第 20 回（2017 年 2 月 25 日）

## ◆カレンダー

<p><b>4月</b></p> <p>3 東京朝市・アースデイマーケットに“ P to P Café”として出店</p> <p>10 教材発売記念カカオ WS を開催 (DEAR と共催)</p> <p>15-22 東ティモール出張</p> <p>23 理事会開催</p> <p>24・25 アースデイ東京 2016 に出店</p>	<p>14-17 インドネシア出張</p> <p>20 TPP を批准させない! 全国共同行動 8.20 キックオフ集会に参加</p> <p>27 パルシステム東京平和フェスに出店</p> <p>30 友産友消のススメ②を開催</p>
<p><b>5月</b></p> <p>2-11 フィリピン・ネグロス出張</p> <p>14・15 「フェアフェス 2016」(池袋)に出展</p> <p>15 URBAN RESERCH DOORS 虎ノ門店で「あなたに合ったコーヒーをみつけよう」WS 開催</p> <p>21 東ティモール・フェスタ 2016 に参加</p> <p>22 「カンタ! フェスタ」に出店</p> <p>29 東京朝市・アースデイマーケットに出店</p> <p>30・31 福島のバナナ募金届け先保育園 4 カ所を訪問</p> <p>30-6/5 JAMMIN チャリティ T シャツキャンペーン</p>	<p><b>9月</b></p> <p>3 しらたかノラの会 10 周年記念の集いに参加</p> <p>5-15 フィリピン・ネグロス出張</p> <p>7-13 グリーンコープ共同体主催 f r o m ネグロス組合員ツアー開催</p> <p>23 農民発電で地域再生～東京と福島でつながろう～を開催</p> <p>24 理事会・評議員会を開催</p> <p>25 生活クラブ生協フェスタに出店</p> <p>27 東京朝市・アースデイマーケットに出店</p> <p>28 友産友消のススメ③を開催</p> <p>30 パルシステム・パルワゴンに出店</p>
<p><b>6月</b></p> <p>4 第 9 回総会開催、理事会開催</p> <p>7-16 フィリピン出張</p> <p>25 東京朝市・アースデイマーケットに出店</p>	<p><b>10月</b></p> <p>2-18 フィリピン・ネグロス出張</p> <p>8-14 ネグロスと東ティモールの若手農民交流プログラム実施</p>
<p><b>7月</b></p> <p>13 友産友消のススメ①を開催</p> <p>21-28 グリーンコープ「青少年ネグロス体験ツアー」開催</p>	<p>13 アーユス組織強化シェアリング&amp;勉強会に参加</p> <p>16 第 10 回土と平和の祭典に出店</p> <p>17 グリーンコープ共同体主催 f r o m ネグロス学習会に参加</p>
<p><b>8月</b></p> <p>4-13 東ティモール出張</p> <p>6・7 DEAR の全国研修会に出店</p> <p>7 東京朝市・アースデイマーケットに出店</p>	<p>21 カカオ WS@パルシステム東京(東大和)</p> <p>22 東京朝市・アースデイマーケットに出店</p> <p>22 友産友消のススメ④を開催</p> <p>24 パルシステム埼玉・平和募金団体交流会に参加</p> <p>28 フェアトレード市@堀ノ内妙法寺に出店</p>

## 11月

- 4-16 グリーンコープ共同体“fromネグロスセミナー”で各地域を訪問【(島根)、おおいた、(長崎)、みやぎき、おokayama、かごしま、ひろしま、くまもと、おおさか、ひょうご、やまぐち(開催日順)】
- 11 カカオWS@パルシステム埼玉(蓮田・伊奈・白岡地区)
- 12 WE21 相模原・東ティモール事業報告会
- 25 パルシステム東京で「カカオから作る手作りチョコレートWS サポーター講座」開催
- 26・27 コピス吉祥寺マルシェに出店
- 28 カカオWS@パルシステム東京(南綾瀬)
- 30 友産友消のススメ⑤を開催

## 12月

- 4 東京朝市アースデイマーケットに出店
- 6 「ホンモノの手作りチョコレート」を広めるカカオ大使になろう! 講座を開催
- 7 恵泉女学園大学授業
- 8 武蔵大学授業
- 10 平成28年度地球環境基金活動報告会に出席
- 13 友産友消のススメ⑥を開催
- 18 第10回国際有機農業映画祭に出店
- 19 佼成学園女子高等学校授業
- 20 カカオWS@パルシステム東京(清瀬)

## 1月

- 11・12 地球環境基金の若手プロジェクトリーダー研修に参加
- 23 カカオWS@hako gallery(東京・渋谷区)
- 24 カカオWS@パルシステム埼玉(蕨)
- 25 カカオWS@開催/パルシステム東京(福生)
- 29 東京朝市アースデイマーケットに出店
- 29 カカオWS@ヤナギコーヒー(埼玉・飯能市)
- 14 カカオWS@新宿エコギャラリー
- 15-23 東ティモール出張

## 2月

- 2 カカオWS@パルシステム東京(三鷹)
- 3 カカオWS@パルシステム埼玉(ふじみ野)
- 3 カカオWS@カフェスロー(東京・国分寺市)
- 4 カカオWS@ Good Day Market 実行委員会(福島市)
- 5 カカオWS@NPO 法人そらまめ(福島市)
- 5 カカオWS@Urban Research Doors 虎ノ門店
- 7 東京学芸大学附属高校授業
- 7 アーユス仏教国際協力ネットワーク新年会参加
- 7-16 フィリピン出張
- 10 カカオWS@カフェスロー(東京・国分寺市)
- 11 カカオWS@どんぐりの木(千葉市)
- 11 なんでもフェスタ(東京・浅草橋)
- 12 カカオWS@生活クラブ生協エスコープ大阪
- 12 カカオWS@健康工房シムラ(東京・羽村市)
- 19 カカオWS@絵本屋Polaris(沖縄・名護市)
- 25 理事会・評議員会開催

## 3月

- 1-8 若手農民交流(ネグロス×ラオス)がネグロスで開催
- 5 大地を守る会オーガニックフェスにチョコレート・アライアンスのメンバーとして参加
- 9 東京朝市アースデイマーケットに出店
- 11 パルシステム埼玉平和募金贈呈式に参加
- 11 パルシステム東京・東日本大震災復興支援シンポジウムに物品販売で参加
- 11・12 フランス人研究者の方たちを、お蔵フェスタ、自給農園ミルパ(千葉県)、じねん道(茨城県)へ案内
- 12 カカオWS@cosh(東京・板橋区)
- 14-22 東ティモール・インドネシア出張

※「ホンモノの手作りワークショップ」=カカオWSとして表記